

学級活動

○ 児童会活動

学校行事

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「主体的に行動する集団の育成」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像	
児童の実態	取組を通して育てたい児童像
<ul style="list-style-type: none"> 指示待ちの児童が多く、主体的に行動することが苦手な児童が多い。 自ら進んで挨拶をしたり、その場に応じた挨拶をしたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士がかかわりを大切にし、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿。 他学年や他の人のために主体的に行動する姿。 他の学年、学校外などでも主体的に挨拶をする姿。



◆ 取組の具体的内容	
取組を実施する意図及びねらい	
<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動や児童会活動を通して、児童の主体的な活動を促す。 異学年交流を通して児童同士の絆づくりを促す。 	
取組の流れ・創意工夫・児童の変容等	
<p>○縦割り班活動の充実</p> <p>・縦割り班メンバーの構成を考える、6年生担任との連携、6年生児童への指導などを行うことで、目的の共有、心構え、活動の進め方を確認するなど、学びの土台作りを進め、日々の指導・支援を行っていった。児童会行事として、縦割り班遠足（1年生を迎える会）、縦割り班遊びを行った。6年生を中心に縦割り班のメンバーで1年生に優しく接しながら、異学年間で協力するゲームを行ったり、一緒にお弁当を食べたりするなど、異学年のつながりを深めることができ、どの班も笑顔があふれていた。また、6年生が主体的に動き、会や遊びを進めることができた。</p> <p>縦割り班遊びでは、1回目の遊びを振り返り、成果や課題を考え、次の遊びではどこを改善すれば良いかを話し合い、更にもっとみんなが楽しめる遊びになるように計画し、縦割り班遊びを実施できた。【共感的人間関係の育成】【自己決定の場の提供】</p>	
縦割り班活動	あいさつ運動
<p>○各委員会による取組</p> <p>・様々な委員会が学校を良くする、楽しくするために主体的に活動を行っている。図書委員会による「図書ビンゴ」、体育委員会による「ケイドロ大会」、児童会執行部による「だじゃれウォークラリー」などのイベントを企画、運営していった。活動を楽しんだ児童が多く、高学年の姿が手本となった。【自己決定の場の提供】</p>	
<p>○あいさつ運動の推進</p> <p>・主体的な活動になるように、児童会と連携して、4月の生活目標を「自分から進んで挨拶をしよう」に設定したり、児童玄関や校門などでの挨拶運動をしたり、各教室を回っての挨拶運動を行い児童会による評価をしたりするなどの取組を通して、進んであいさつをする児童が増えた。【自己存在感の感受】【共感的人間関係の育成】【自己決定の場の提供】</p>	

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）	
<p>○縦割り班活動の充実では、児童アンケートの「縦割り班遊びが楽しかった」の肯定的割合が89.9%、高学年に実施した児童アンケート「主体的に活動できた」の肯定的割合が93.6%だった。どちらのアンケートも90%近くの児童が肯定的評価だった。</p> <p>●来年度に向けて、5年生をリーダーに「6年生を送る会」を行うなど、縦割り班活動を引き継いでいく。学びの土台作りを進め、日々の指導・支援を今後も意識していく。</p> <p>○あいさつ運動の推進では、児童が進んで挨拶をしたり、進んで挨拶を返したりすることができていると自己評価している割合が4月当初の93.2%から1月末までの平均では95.9%に増えた。</p> <p>●一方で、進んで挨拶ができていないと自己評価している児童が高学年に多い。今後は、かかわりの大切さを意識させ、自ら進んで挨拶をする児童を増やしていきたい。</p>	